

1 生徒の実態（実態把握・調査結果の分析）

（1）生徒の実態

1年生：音楽表現に対する興味関心は高く、ほとんどの生徒が積極的に取り組んでいて発言も多い。しかしながら、音楽的な発声方法や身体の使い方等の基礎的な知識・技能が身につけていない為、歌声に表れている。鑑賞活動においては、静かに鑑賞することができる。

2年生：音楽表現に対する興味関心と目標は高い。ほとんどの生徒が積極的に取り組んでいて発言も多い。しかしながら、基礎的な知識が身につけていない生徒が見受けられ、定期テストに顕著に現れる。鑑賞活動においては音楽を総合的に聴取し楽曲を批評することができる生徒はまだ育っていない。

3年生：授業に対して関心を持ち、まじめに取り組んでいる。鑑賞活動においても、音楽的要素を知覚し感受している生徒が多く、楽曲を批評することができるようになってきた。表現活動においても意欲的に取り組むようになってきているが、まだ恥ずかしさに打ち勝つことができず、集団のなかに隠れている生徒もいる。

（2）調査結果の分析

- ・授業のねらいや評価のポイントが明確に伝わっていないので、今後ねらいや評価について明確に伝える。
- ・一人ひとりの質問に丁寧に答えて欲しいという回答が少数あったので、丁寧に答えていくことを心掛ける。

2 指導上の課題

- ・表現活動では、ただ表現するのではなく、思いや意図をもって表現の工夫ができるような指導を行うこと。
- ・表現力を高める為には基礎的な知識も必要だということを理解させること。
- ・鑑賞では、言語活動の充実を図り、鑑賞の能力につながる音楽的な感受力を高めること。

3 授業改善の視点とその方策

・歌唱においては、変声期を迎えている生徒に配慮しながら生徒の興味関心を引き出せるような教材の研究を行う。生徒の感情にあった、合唱曲を取り組ませ、個々の表現の技能を最大限に高められるようにする。その中で基礎的な知識も扱う。

・鑑賞においては、音楽の諸要素の働きと曲想の変化に気づかせ、理解させたりしながら音楽の感受力を高められるようにして、総合的な聴き取りや感じ取りを行う。話し合いなどの言語活動も取り入れていく。

・分かりやすく学習を深められるようなワークシートを作成し、記入方法も具体的に指導していく。発表する場や話し合い等のグループ学習を増やし、自分の思いや考えを言葉で伝える活動の充実もはかる。

- ・ねらいや評価を明確にした授業ができるようにする。